

伝統文化は「ダサイ」のか

魚沼市立広神中学校三年 目黒 菜月葉

「なにそれ、ダサくね？」

ふとした日常で友達に言われた言葉。何気ないその一言が私の心に強く刺さった。

その時の話題は「自分の習い事」についてだった。友達は、ピアノ、英会話などさまざまなことを語ってくれた。そして、私の番。私は小学生からやっている「そろばん」について話した。その結果が「ダサイ」だった。

「今の時代、電卓があるんだからさ。」

確かにそうとも言えるけど…。何よりも「ダサイ」の一言がとても衝撃的だった。

それからというもの、私はずっと考えていた。確かに今の時代、そろばんとは古風かもしれない。けれど、電卓にはない良さがある。例えば、そろばんは暗算ができるようになる。私はそんなに得意でないけど、三桁くらいなら何とかできる。電卓は電卓がないと計算できないが、そろばんは何もなくても指二本で計算ができる。そんな便利なものを「ダサイ」の一言で片付けてよいのだろうか。

そろばんだけではない。私は、小学生の頃から地域で民謡と太々神楽を習っている。

どちらも確かに「ダサイ」といってしまえば「ダサイ」のかもしれない。民謡は、歌い手に合わせて三味線や太鼓が伴奏する。そして、私たち踊り子が踊る。題名が同じ曲でも、地域によって振り付けや調子が違う。広神地域では「広大寺」という曲がメジャーだ。

太々神楽は、私の住む田中地区で二百年以上にわたって受け継がれる、実に歴史のあるもの。年に一度、白神様をまつるために奉納している。私も詳しくは知らないが、十五種類以上の演目があり、その一つ一つに意味がある。例えば、私が踊った曲「みやび宮毘」は豊作を願う曲で、曲中にも稲刈りの振り付けがある。

今の時代、派手な音楽や踊りが好まれる。もちろん私も好きだ。それに比べて伝統芸能は、和楽器を使っでの演奏に合わせて踊るという、確かに地味な芸能だ。観客にしてもお年寄りが多く、同世代から注目を集めることはまずないだろう。

けれど、そんな伝統芸能は私にとってかけがえのないものだ。私はこの地域が大好きだ。けれど、伝統芸能に触れることがなければ、別に好きではなかつ

たかもしれない。伝統芸能と関わることは地域と関わることだ。地域の大人と関わる機会も増える。当然、地域の大人にかわいがってもらえる。人間、誰だってかわいがられたらうれしい。一緒に伝統芸能をする仲間もできて、人脈も広がる。いいことだらけだと思う。

しかし、今、伝統芸能にある危機が迫っている。そのことを知ったのは、こんな一言だった。

「最近の若い人は日本舞踊なんかやらないからなあ…。」

うちの祖父と地域の方が言っていた。確かに、今まで一緒にやってきた仲間もどんどんやめ、新メンバーもあまり入ってこない。人がいないと伝統芸能はできない。危機だ。

私は考えた。この危機をどうにかできないのか。今の私にできることは、たぶん伝統芸能をできるだけ長く続けることくらいだ。だから、一年、一か月でも長く続け、大好きな伝統芸能と地域に一ミリグラムでも貢献したい。

今、日本の文化は変わり続けている。これからもきっと進化していくことだろう。新しい文化を築くのは、今を生きる私たち。けれど、日本が古くから受け継いできた伝統を時々立ち止まって考えられるといい。日本には面白い文化が山ほどある。その全てを知ることは無理かもしれない。それでも、日本人に生まれたのだから、何か一つは知っておきたい。関わる前から「ダサイ」の一言で片付けるのではもったいない。その「ダサイ」文化から学ぶことも本当にたくさんある。今の時代の私たちが忘れて「心」が詰まっている。少し恥ずかしいかもしれないが、勇気を出して触れてみると、案外、面白いと感ずるはずだ。

私の住む広神にはたくさんの文化がある。私が一生広神にいるかどうかは分からない。けれど、この素晴らしい文化がいつまでも受け継がれていくことを、心から願っている